

目次

地区会開催にあたって	
地区会に寄せて—研究の活性化と絵画教育の問題	
金子一夫……………	2
堂島からの発信—新たな地区会へ向けて	
花篤 實……………	2
プログラム……………	3
コーディネータの視点	
21世紀の美術教育構想と絵画のモダニズム—美術教育が歴史性を獲得するために	
永守基樹……………	6
基調提案1—理論的枠組みから	
[絵画・以降]の時代に構想する絵画教育—[零度の平面]と[零下の平面]をめぐって	
永守基樹……………	8
基調提案2—題材実践を通して	
造形遊びから絵画教育への道筋を探る	
西井恵美子……………	16
基調提案3—実践例に基づいて	
ゲルハルト・リヒターを通じて抽象絵画教育を考える	
湯川雅紀……………	20
招待発表：提案1	
教員養成と絵画教育	
「本当の私」を起点とする絵画教育からの脱却をめざして—<子ども>という他者に降りるために	
大嶋 彰……………	24
招待発表：提案2	
現代〈絵・画〉の解剖学	
—身体、視覚、言語との関わりから	
渡邊晃一……………	28
招待発表：提案3	
モダニズムで生じた展開とポストモダニズム的拡散から	
構想する体系的な制作体験型絵画表現史の試み—表現とディシプリンの狭間で—	
喜多村徹雄……………	32

論評の視点1

ドローイング考—ドローイングとペインティングを繋ぐもの、あるいは、ドローイングとペインティングの等価性について
岡本康明……………36

論評の視点2

ブランケンブルク『自明性の喪失』の症例 アンネ・ラウの昨日の私と今日の私をつなぐ絶望的な営みは、私たちの日常である
小野康男……………38

論評の視点3

メディアと子どもと絵画表現
—現代という時代のラフスケッチとして—
山本朝彦……………40

論評の視点4

それぞれの絵画表現の〈初発の動機〉から：なぜ表現するか？何を表現するか？
小澤基弘……………42

司会者の視点

“絵画を語ること”と、“絵画で語ること”—。美術教育を考える立ち位置と議論のゆくえへの関心
佐藤賢司……………44

資料

シンポジウム「[絵画・以降]の時代に構想する絵画教育」記録
和歌山大学美術教育研究会……………46

- ゲストパネラー：岡本康明、奥村泰彦、佐藤賢司、澤田克之
- ゲスト参加者（発言者）：大嶋 彰、佐野真知子、原田 要、八木遼蒼、渡邊美香
- 会員パネラー：笠原 彩、北野 諒、西井恵美子、保富仁之、湯川雅紀、永守基樹

題材群開発プロジェクト：[オルタナティブ・ドローイング] 解題
題材をならべて—みること：[オルタナティブ・サマリーズ]
北野 諒……………61

編集後記・謝辞

企画運営委員
末延國康（大阪芸術大学）
宇田秀士（奈良教育大学）
佐藤賢司（大阪教育大学）
竹内晋平（奈良教育大学）
丁子かおる（和歌山大学）
渡邊美香（大阪教育大学）

装丁デザイン
湯川雅紀